



番組制作という仕事、そして花組について  
～2026年卒採用にむけて～

# はじめまして、花組です

私たち花組は2024年9月で創立21年を迎えた番組制作会社です。

2003年の9月、3名からスタートした制作会社でしたが

現在は仲間を増やし30名を超えるまでになりました。

番組制作会社としてスタッフ30名程度というのは

正直、大きい制作会社とは言えませんが

スタッフそれぞれの個性を伸ばし活かすことで、

人数以上の制作活動を行っていると自負しております。

この度、花組の2026年卒の採用活動のスタートと致しまして、

就活生を支える支援側の皆さまに番組制作という仕事、

そして花組という会社をぜひとも知っていただきたいという思いから

このようなご案内を作成いたしました。

番組制作という仕事へのご理解、

また番組制作にご興味を持つ就活生への情報提供の際に

お役立ていただければ幸いです。





### “わかりにくい”を“わかりやすく”

番組制作という仕事はなかなかイメージがつかみにくく、ご理解いただくのがむずかしい業種です。

日々、ご視聴いただいているテレビ番組ではありますが、実際に番組を作る仕事やそれに携わるスタッフがどんな仕事をしているのかはなかなか身近に感じていただく機会はないのではないのでしょうか。

実際、テレビ業界を目指し花組のインターンシップや会社説明会に参加してくれる就活生のみなさんからも「業界研究がしにくい」「調べれば調べるほどわからなくなる」と

いう声が多く聞かれます。

そんな疑問を解決するために、花組のインターンシップや会社説明会では番組制作の入り口から出口までムービーやワークショップを通じてできる限り詳しくご説明し、番組制作へのご理解を深めていただくことを第一の目的としています。

まずは番組制作という仕事を理解し、そしてその業務を行っている花組という会社に興味をもっていただきたいと考えているからです。



### 多種多様な番組制作を目指す会社

番組制作会社としての花組の特徴のひとつは「多種多様な番組の制作」です。カタイものからヤワらかいものまで、大きなものから小さなものまで、また各局に渡り数多くの番組を制作しています。多種多様な番組を制作することで、花組のスタッフには多くの経験を与え成長を促すことができる環境を提供したいと考えています。

### スタッフひとり一人を成長させる会社

スタッフの成長を促すため「花組スタンダード」を掲げております。「花組スタンダード」とは会社全体で行っている働くためのキャリアパスへの取り組みで、「業界の常識にとらわれず、花組のスタッフひとり一人の個性を十二分に活かし、それぞれがそれぞれのありたい姿で番組制作に臨むこと」を目指しています。そのために、年2回の定期的な役員との面談だけにとらわれず、役員とスタッフそれぞれが必要と思うタイミングで面談、ヒアリングを行い、会社、そしてスタッフとしてのあり方をすり合わせ、花組スタッフひとり一人の想い、希望を聴き活かしながらキャリアパスをつないでいます。

### スタッフを大切にしている会社

花組の財産は花組スタッフです。すべてのスタッフが「花組で仕事ができてよかった」「花組でよかった」と

思ってもらえるような会社になること、それが花組の目指す姿です。今の花組を支え日々作り上げ成長させてくれるのは花組スタッフひとり一人であり、その活躍です。「会社があるだけ」では花組という会社は成立しないのです。またここ数年のコロナ禍で業界の働き方は大きく変わりました。たしかに「モノを創る」という業種ゆえの多忙さ、困難さがありますが、それを踏まえた上でも今流の働き方を花組では模索し、会社全体で受け入れております。

### 変化を味方に成長する会社

現在、テレビ業界、番組制作という仕事を取り巻く環境は大きく、そして日々変化を続けております。私たち番組制作者に求められるものは、いわゆる地上波だけではなく、BS放送、YouTubeをはじめとしたインターネットでの視聴、そして多くのオンデマンド配信など、多種多様な映像形式の制作です。花組は創立以来20年以上、テレビ番組制作を主戦場としてきました。しかしメディアをとりまく変化に対応すべく、今まで培ってきた経験と若手スタッフを積極的に起用しながらYouTubeはもちろん、インターネットでの配信番組、BS放送やサブスクリプションでのコンテンツ制作などにも取り組んでいます。これからも変化を恐れず変化を味方に様々な映像作品の制作を目指していきます。



## スタッフインタビュー

花組スタッフに仕事のこと、会社のことを聞いてみました。  
就活生が一番気になる「会社の雰囲気」が伝わればと思っています。

### 入社3年目のK.Uさん

アシスタント・ディレクター

2020年入社

担当番組「相葉マナブ」の担当を経て、現在は「マッドマックスTV」に携わる入社3年目のアシスタントディレクター。  
まさにコロナ禍と同時に社会人となり花組の一員となりました。上原さんたち新入社員もそして花組も今までに経験のない状況でのスタート。  
コロナ禍での入社やその後の様子、そして2年目となり先輩となり後輩を迎えた今の気持ちも聞いてみました。

**新卒採用での入社ですが、  
どうやって花組をみつけたのですか？**

就活サイトで花組を見つけました。まず、目を引いたのは会社紹介やHPに書かれていた「働き方改革」でした。またHPを読み進めていくうちに「人を大切にする会社」という文章にふれ応募を決めました。その説明通り、面接の時などは他社と比べて学生ひとりひとりと会話をしてくれる感じがして「人を大切にしている会社なんだな」という印象を強く持ちました。

**花組に入社しようと思った決め手は？**

実は就活サイトで花組を見つけた時からこの会社に入社しようと考えていたんです。理由を聞かれると困るのですが、直感で決めてました(笑)。

**“直感”で入社を決めて入社した花組ですが、  
入ってみてどうでしたか？**

人、社員の声を聞いてくれる会社だと思います。働き方改革を打ち出していることもあって、勤務時間もADのことを考えてシフトを組んでくれているなどと思っています。ADをやるなら花組、オススメです！

**相葉マナブの担当をしてきて一番印象的なことは？**

初めて1時間スペシャルを担当したことです。ネタ担当なのに何もできなさすぎて担当ではない人に助けられました。それまでも通常の30分の番組制作で経験を積んでいたけど、1時間スペシャルっていうのは特別で今まで味わったことのないような空気でした。

**相葉マナブならではの面白さを教えてください**

ロケもハードで大変なのですがつらい分、達成感をとても感じます。ロケが終わってうまくいったときの解放感は特別です。

**番組制作の仕事をしていることをご家族やまわりの方は  
どのように思われていますか？**

コロナ禍で全く実家に帰ることができていないのですが、忙しい仕事だといくことはわかっていてくれて電話で気遣ってくれます。祖父母も含めて家族は毎週相葉マナブを楽しみにしてくれているんです。こんな風に自分の携った番組をテレビを通じて離れた家族に観てもらえるのはこの仕事ならではのことだと思います。

**これからの目標、めざすものを教えてください**

今考えていることはADのその先を目指したいと思っています。ADのその先、ディレクターに近づくためにADの仕事だけでなく、ディレクターがどうやって台本を作り現場をまわしているのかをロケ中に学ぶようにしています。そういった日々の努力がディレクターに近づくことだと思っています。

**どんなディレクターを目指していますか？**

自分になりたいディレクターはテレビの前の全員に面白いと思ってもらえる番組はもちろん、一部の人もいいから見続けてもらえる、そんな番組をつくれるディレクターになりたいと思っています。

**就活生に伝えたいことはありますか？**

やりたいと感じたことは絶対にやった方がいいです。実際にやってみてつらかったらやめてもいい、そう思います。自分はやりたいと思ったら他のことを考えず、やりたい気持ちさえあれば乗り越えられると思うんです。少しでもやりたいことを選んで、つらいかもしれないと思ってチャレンジしてみるべきだと。正直、この一年つらいこともありました。でも本当にやりたい仕事だったから、やめたいと思ったことは一度もありません。

スタッフインタビューの抜粋となります。

ぜひ[花組ホームページ](#)に掲載中のフルバージョンをご覧ください。

## 入社11年目のM.Kさん

ディレクター

2012年入社

担当番組:「しくじり先生～俺みたいになるな～」

入社11年目のディレクター。

花組に入社したきっかけ、ディレクターという仕事、今の花組、そしてこれからの花組についてお話を聞きました。

### 花組に入社したきっかけは？

僕は25才のとき花組に入社したのですが、それまでは別の派遣会社に所属していて、その会社からADとして派遣されるかたちで花組の番組制作の仕事をしていました。当時の花組はまだまだ小さい会社で、外から見ていても大変そうだなと思っていました(笑)。でも小さいけどなんだか勢いがあるってここでなら自分もディレクターになれるチャンスがあるかなと感じ、社員にして欲しいとお願いしました。派遣としてADをやっていた時は何となく先が見えない感じがして。大変でもいいから制作会社の社員として頑張りたいと思ったんです。

### 番組制作の仕事をしてきて良かったことってなんですか？

う～ん、めちゃめちゃあってぱっと出てこない、それくらい良かったことがいっぱいあります。ここまで番組制作の仕事をしてこれた理由の一つは取材先とか、出演してくれた芸人さんやタレントさんがOA後に「よかったよ」って言ってもらえることですかね。時には「ありがとう」とまで言ってくれる。これは仕事をしていて日々感じるよかったことです。

### この先、どんなディレクターになって

#### どんな番組をつくっていききたいですか？

ここ数年ディレクターをやりここまできて、ガツガツとかオラオラみたいな感じではなく、ひとつひとつ丁寧に番組に向き合っていける、そんなディレクターになりたいと思っています。番組スタッフや出演者、タレントと一緒に番組を作って良かったな思ってもらえる、そんなスタイルで番組を作っていきたいです。そしてそこで生まれた人との繋がりを活かして新たなものにも挑戦したいと考えています。もちろんテレビだけに留まらずYouTubeや様々な媒体にも視野を広げて、観ている人にもそして自分自身も楽しめるそんな仕事をしていきたいです。

### 花組のスタッフ、そして自身のスタンスについては？

花組の中では中堅になってきました。今の若い子、ADたちは本当にかんばっているなあと思っています。自分がADの時より時間的拘束は少ないぶんと少なくなりましたが、でもやる仕事の種類が増えているなど。そんな若手のためにももっと自分みたいなディレクターに色んなことを聞いてくれたらいいのと思っています。下の子たちに色んな事を教えて、チャンスを作ってあげたいと思います。そしてもう一つは中堅としては上の世代の言いたいことも下の世代の考えていることもわかる立場として、ふたつの世代の架け橋になれたらとも思います。自分たちの世代こそがつなげる役割で、それぞれの世代がちゃんとつながることがこれからの花組に必要なと思うからです。

### 番組制作を目指す就活生に伝えたいことは？

若いADさんに接して感じたことなんですが、一部ではありますが「野望がないな」と。言われたことを言われた通りにやるだけ、言われた事だけをやるのに徹する、そんなADさんを見かけることがあります。ちょっと臆病になっている？やらなくていい仕事からはしたくないって気持ちがあるのかな？と思います。自分自身のAD時代を振り返ってみると、とにかく上乗せしてました(笑)。上乗せでちょっと多く仕事をするのがその後の仕事を増やさないことであり、結果自分の成長につながっていたと思います。

これからのAD、特に花組と一緒に仕事をするADにはもっと貪欲になって欲しいと思います。これから花組で活躍するADには言われたことだけやる、それではちょっと足りないなど。

自分が何をするのかを自分で目指し、進んで仕事をみつけられるそんなADが花組で活躍して欲しいと思います。

スタッフインタビューの抜粋となります。

ぜひ[花組ホームページ](#)に掲載中のフルバージョンをご覧ください。

## 学生インタビュー

「わかるようでわからない番組制作の仕事」について、さまざまな大学・学部みなさんに、それぞれの目線で番組制作というものをとらえ、わからないこと、聞きたいことをすべてインタビューしてもらいました。

インタビューに答えてくれた花組スタッフ

入社2年目のアシスタントディレクター

**S.Nさん**

ソレタメ! (テレビ東京) ニュースエブリイ  
エブリイ特集 (日本テレビ) ミライアカデミア (BSテレビ朝日)などを担当。

インタビューしてくれた学生さん



**武蔵野美術大学**

**造形学部 芸術文化学科2年**

**“番組制作は人と人とのつながりが大切なお仕事。  
たくさんの人との関わり、そしてコミュニケーションを  
円滑にすることでよりいい番組が作り上げられる。”**

**学生(武蔵美):**はじめに、番組制作というお仕事について教えてください。

**花組スタッフ:**大まかにいうと、企画から撮影、編集を行い、放送に至るまでの全ての工程を担っているのが制作です。

その中でADはほとんどの工程に携わります。次の放送で何をするかという企画の提案やそれに伴う会議資料の作成から始まり、企画が通ったら、どこにロケに行き何をするかをディレクターと相談して決め、会議室などの場所を押さえたり、台本をタイピングしたりします。基本的にはディレクターのアシスタントなので、ディレクターが仕事をしやすいようにスケジュールを立てロケの準備をし、関係する方と細かく連絡を取ります。撮影の後、今度は編集作業に入ります。ADは撮影した映像を編集用に変換する作業をしたり、ディレクターが編集しやすいように編集ソフトのプロジェクトを作っておきます。その後は編集所で編集した映像のテロップや情報の確認をします。そして出来上がったデータをテレビ局に納品するまでが、ADの仕事の一連の流れです。

ディレクターに付いて動くことはもちろん、AD同士でも確認をし合ったり。一つの番組の中でチームができていて、みんなでものを作り上げようという感じです。個人戦というよりはチーム戦というイメージです。戦うわけではないですが(笑)。

**学生:**花組のインターンシップについて詳しく聞かせてください。

**花組スタッフ:**花組のインターンシップは2年生の終わり頃に行きました。内容としては、番組の企画をしました。他社と違ったのは、企画に対していろんな人からフィードバックがあったところです。いいところを、直した方がいいところを送ってきてくれたんです。他のインターンシップでは無かったので、一人一人を見ている丁寧な会社だなと思いました。

**学生:**番組制作のいいところややりがいを聞かせてください。

**花組スタッフ:**タイミングによってやるのが違うので、同じことをし続けるより変化を求める人にはすごく合っていると思いますし、自分自身番組制作のいいなと思うところです。やりがいは自分の作ったものが誰でも見られるテレビという媒体で放送されて、いろんな人に見てもらえることであったり、家族や知り合いから「見たよ」と言ってもらえたり、取材先のひとから「ありがとう」と言ってもらえたりすることです。

最近、お店の取材を担当することが多いのですが、お店のひとから「テレビに出てからすごく売れて…」というような反響をもらうと、頑張ってよかったなと思います。直接そういった人と関わるのはADやディレクターならではの仕事で、自分たちがコネクションを作って実際に連絡を取り合った人たちに喜んでもらえる番組を作れることが一番嬉しいです。

**学生:**反対に、苦勞するところ、難しいところはどんな場面で感じますか?

**花組スタッフ:**正直大変といえば全部大変なんです(笑)、特に人との連絡を取るときには相手はどう受け取るかニュアンスに気をつけながら、こちらの意図も伝えたいし、向こう側の話も聞きたいし…。と考えるので、コミュニケーションのやり方が難しいなと思います。色々なコネクションがある中で、コミュニケーションを円滑に行わないといけないことは大変だなと感じます。あとは、編集のチェックはADの仕事なのですが、そのときに漏れがあって直しになると、余計な時間がかかったり、いろいろなところに迷惑がかかったりしてしまうので、ADは業界的にいうと一番下っ端ではあるんですけど、それなりに責任感も持たないといけないですね。

**学生:**会社の雰囲気を見せてください。

**花組スタッフ:**就活のとき、社員の多い制作会社や大手の制作会社などでも話を聞いたり面接を受けに行ったりしましたが、花組でよかったなと思うのは、人数が多くないので社員全員のことがわかるんです。大企業では顔もわからない人もいると思うんですけど、花組では全員を知っていてどんな人かもわかるし、出勤したときは気軽にお話できたり、アットホームな雰囲気です。お互いがお互いをわかって仕事ができるのはいいところだなと思います。それが花組を選んだ決め手でもあります。

# 学生インタビュー

インタビューに答えてくれた花組スタッフ

入社10年目のプロデューサー

**T.Kさん**

「相葉マナブ」「マッドマックスTV」「凧咲と芸人マッチング」「しくじり先生」(テレビ朝日)、「フルタチさん」「芸能人が本気で考えた!ドッキリG」(フジテレビ)、「所でナンじゃこりゃ」(テレビ東京)などを担当。

インタビューをしてくれた学生さん



**東京理科大学  
経営学部2年**

**“番組制作は自分が面白いと思ったことが一つの映像作品として残るのがいいところ。テレビ業界には様々な職種のプロフェッショナル達がいて、一つの番組はその力の結集である。”**

**学生(東京理科大学):** テレビ番組はどのように作られているのですか?

**花組スタッフ:** 制作会社が作る番組には、大きく分けて2パターンあります。制作会社が企画を立ち上げて、テレビ局に打診するパターンと、テレビ局が企画を立案して、制作会社に依頼するパターンです。ただどちらも完成までの工程はほとんど同じです。まずは予算に応じて、大まかな企画内容を作家、ディレクター、AD、プロデューサーを含めて話し合い、ディテールを詰めていきます。その後出演者やカメラマンを募って、取材・撮影に向かいます。撮影終了後、一番初めに行うのはオフラインという作業です。この過程ではディレクターが映像を繋いで、一つにまとめ上げます。次にポストプロと呼ばれるテロップ入れなどをする過程に移ります。完全にテロップを入れ終わったものを画完と呼び、その画完を音効さんと呼ばれるSEをつけるプロフェッショナルに渡し、ディレクターの好みなども反映しながら音をつけてもらいます。最後にミックスという作業があり、ここでNGなコメント削除したり、BGM 音量の調整をしたり、SEを足したりします。こうして一つの番組が完成します。

**学生:** ディレクターとはどういった仕事ですか?

**花組スタッフ:** ディレクターは番組のクオリティを担保する人たちで、ADに対する指示を出して、最終的に番組を成立させることが仕事です。企画段階からこういう企画どうですかであったり、このようなコーナーどうですかという提案をして、ADに小道具の準備やリサーチの指示をかけます。現場においてもカメラマンへの撮影の指示をして、先ほど話したオフラインという作業をして、ナレーションなどを構想します。その後各プロデューサーにチェックを受けて、編集まで携わります。なので番組作りの根幹を担っているのがディレクターです。

**学生:** プロデューサーとはどういった仕事ですか?

**花組スタッフ:** プロデューサーは人を集める、予算管理をする、危機管理をする仕事です。人を集めるところで言うと、新しい企画が立ち上がり予算が決まると、こういう番組の作り方が出来るなということが大体想像

できるので、だったらディレクターはこの人にしよう、ADはあの人でやろう、音効さんはあの人にしようというのをテレビ局とやり取りします。危機管理であれば、企画の段階でコロナ禍でクラスターの恐れがあるから食事のシーンはやめようであったり、出来上がったVTRに対しても、例えばタレントさんが「それは頭おかしいでしょ」と言っていたらいろいろマズいので、切り取って「それはおかしいでしょ」に変える、というような危機管理的なことをやります。

**学生:** 制作会社におけるキャリアパスを教えてください。

**花組スタッフ:** これも2パターンあって、現場に立ってディレクターをやって、演出をやりたい人と、そうではなく僕みたいなプロデューサーをやりたい人に分かれます。まず初めはみんなADをやります。そこで3~5年経験を積んで、ディレクターをやりたい人はディレクターになり、その中でも素質のある人はディレクターの最高峰である演出という、すべてを取り仕切る人になれます。一方でプロデューサーをやりたい人はAPになり、プロデューサーへの道に進みます。ディレクターとプロデューサーは作り手側と裏方側というような感じですよ。

**学生:** 番組制作という仕事のいいところは何か?

**花組スタッフ:** 何がいいと言えば、自分が面白いと思ったことが一つの映像作品として残るのがいいところです。それは今の時代YouTubeでも出来ると思うのですが、それとは違うお金のかけ方とプロフェッショナルの力があります。ある意味、自分にセンスが無くても、企画さえ通ればプロのプロデューサー、プロのカメラマン、プロのADの力で驚くほど簡単にクオリティの高いものが完成しちゃいます。それはYouTubeとかでは絶対に起こりえないと思います。

**学生:** テレビ業界の知られざる一面はありますか?

**花組スタッフ:** テレビ業界はブラックと言われることが多くて、事実の部分もあると思うのですが、それは意外と10年前ぐらいの情報で、今はADもちゃんと休んでいる印象です。もちろん大変な番組は大変ですが、きちんとシフトを組んで、ADもたくさん集めて、休めるような体制を組んでいるのが今のテレビ業界です。

# 内定者アンケート

2022年に入社した新人スタッフに入社前に行ったアンケートです。

彼らが就活生だった時の経験や思い、そして花組への入社を決めてくれたときの思いを聞いてみました。

## 関東の大学ご出身のS.Tさん

アシスタント・ディレクター  
2022年4月入社

関東の大学ご出身のS.Tさん。

就活中大切にされていたこと、番組制作を志望したきっかけ、また花組への入社を決めたときの想い、を聞かせてくれました。

### Q 就活で大変だった、苦労したことは？

エントリーする会社を選ぶのがいちばん時間がかかり、大変でした。新卒募集をしている制作会社をノートに書き出し、全ての会社の説明会に参加して選んでいきました。大変でしたが、自分に合った会社を見つけるのは本当に重要な事だと思います！

### Q 就活でいちばん大切にしていたことは？

とにかくエンタメ・テレビが大好き！という気持ちを伝えることを、いちばん大切にしていました。また、学生時代に自分が経験してきたことを言語化することも意識していました。

### Q 番組制作を目指したきっかけ、志望理由は？

バラエティ番組が大好きというのが1番の理由です。面白い芸人さんたちが沢山輝けるような番組を作りたいと考えて、番組制作を目指しました。

### Q ズバリ、花組を選んだ理由は？

花組の制作している番組に魅力を感じたことは大きな理由です。しかし1番は、面接を進めていくなかで実際にお話した花組の社員さんの人柄に魅力を感じました。沢山の制作会社を受けてきて、花組ほど親身に就活生の話や疑問に答えてくれた会社はありませんでした。ここで働きたいと心から思ったので、花組に決めました。

### Q 入社前の今、どんなお気持ちですか？

不安もありますが、やる気で満ち溢れています！(笑)

### Q 就活生へ伝えたい一言をお願いします！

うまくいなくて辛い時もあると思うのですが、熱意と今まで経験してきたことを信じて頑張ってください！

## 九州の大学ご出身のI.Kさん

アシスタント・ディレクター  
2022年4月入社

九州地方の大学ご出身のI.Kさん。

就活中の志望業界の絞り込みの苦労や、面接での秘訣、番組制作を志望したきっかけ、また花組への入社を決めたときの想いを聞かせてくれました。

### Q 就活で大変だった、苦労したことは？

テレビ業界と、商社やメーカーなど複数の業界を視野に入れていたため、ESや面接でも人より多くの回答を用意する必要があった。業界を絞りすぎるのは、可能性が狭まるのでよくないが、個人的には2つか3つでとどめた方がよいと感じた。テレビ業界での就活で言えば、ESや面接練習などやること多いのに、番組もチェックしないといけないのが、大変だった。

### Q 就活でいちばん大切にしていたことは？

面接の特に力を入れており、多くの企業にESを送り面接の機会を設けた。そこで、他の就活生の気に入ったフレーズや返しなどは、積極的に取り入れ、自分風にアレンジした。また、この人と働きたいと思ってもらえるように、笑顔で受け答えしたり、柔軟に会話ができるようにリラックスして臨んだ。

### Q 番組制作を目指したきっかけ、志望理由は？

自分の考えや、思い付きから人を笑わせることが好きで、大学時代の学園祭の運営で強く思うようになり、エンタメの職業に就くことを考え始めた。数多くあるメディアの中から、自信が今まで多く触れてきたテレビという媒体なら、より多くの人を楽しませることができると思い、テレビ制作会社を志望した。

### Q ズバリ、花組を選んだ理由は？

自分が好きな番組である「しくじり先生」の制作に会社名が乗っていたためHPにアクセスした。その際インターンシップを募集しており、それに参加した。丁寧に番組制作のことについて教えていただいたし、就活の悩みなども聞いていただいた。本選考の際も、面接での会話や食事会の開催を予定していることを聞き、会社の良い雰囲気と、コミュニケーションを重視しているような部分が見られた。また、遠方から面接に向う際は、交通費を支給していただき、就活生の負担を少しでも減らしてくれるような思いを感じた。

### Q 入社前の今、どんなお気持ちですか？

楽しみと不安が入り混じった気持ち。しかし、不安はどの仕事でも共通してあるため、少しでも自分のやりたい映像制作という仕事をできる喜びを感じており、楽しみという気持ちが少し上回っている。残りの学生生活で、今しかできないこと、今だからできることを探して、悔いのないように過ごしている。

### Q 就活生へ伝えたい一言をお願いします！

頑張らずに！頑張れ！

現在、2026年卒採用に向け準備をすすめています。

### **インターンシップ**

2025年1月～2月に開催決定！

花組のインターンシップでは番組制作の工程を実際に私たちが制作している番組をもとにしたコンテンツを使用し詳しくご説明いたします。番組を作るということの面白さ、楽しさ、そして厳しさもお伝えします。番組制作のシミュレーションのワークショップも開催します。

番組制作の基本は「楽しむこと」。知りたいこと。聞きたいことがあれば質問して、ぜひ楽しんで花組のインターンシップにご参加いただきたいと思っています。

※オンライン、対面共に開催します。

### **実際に番組制作を体験できます！**

インターンシップにご参加いただいた方には後日開催される実際の制作現場での業務体験のご案内もいたします。花組スタッフが実際に制作に携わっている番組の現場でアシスタントディレクターの業務を体験できます。実際の制作現場の空気に触れることでより番組への理解を深め、面白さそして魅力を感じていただける機会となるはずです。

### **会社説明会**

2025年2月～

※オンライン、対面共に開催します。

### **書類選考**

2025年3月開始予定

### **面接**

2025年4月～

※一次面接(オンライン、対面を検討しています)、二次面接(対面)、役員面接(対面)を行います。

### **内定**

2025年6月下旬予定

貴校にお伺いしての個別のインターンシップ、会社説明会も開催可能です。

若年層の就活支援活動をしている花組の採用担当(国家資格キャリアコンサルタント)によるキャリアガイダンス、キャリア教育なども行っております。個別インターンシップ、会社説明会、キャリアガイダンスの開催など、お気軽にご相談ください。

株式会社花組

採用担当窓口 担当者 松生(まつおい)

Tel: 03-5766-1387 Email: matsuoi@hanagumi.co.jp

お電話、メールどちらでも対応可能です。